

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【三室中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	「ドリルパーク」や「スタディサプリ」を計画的に活用することで、基礎的・基本的な知識・技能が定着するよう に全教員がICTを取り入れた授業づくりをしていきたい。 基礎的・基本的な知識・技能の定着に向けて粘り強く考える力を育てていくことが課題であると考えられ る。主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善に継続して取り組み、ICTを効果的に活用したり、話し合 い活動を充実させたりすることで、「個別最適な学び」のための手立てを講じていきたい。
思考・判断・表現	「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか。」の項目で課題が見られたため、主体的・対話 的で深い学びに向けた授業改善に継続して取り組み、話し合い活動を充実させることで、各教科の思考力・判 断力・表現力を高めていきたい。また、情報を集めて整理、分析をしたり、自分の考えをまとめたりする際 や、自分の考えを発表する場面や学級の友達と意見を交換する際に積極的にICTを効果的に活用してい きたい。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 反復学習による基礎学力の定着を計る。 <指導上の課題> ICT、スクールタッシュボードの効果的活用。	⇒ 個別最適化された学習を提供するために「スタ ディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、基礎 的・基本的な知識・技能の反復・習熟に取り組む。 学習履歴を自分の学習の調整や教師による指導 の改善に役立てる。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 自らの考えを他者と交流する際に自信を持つこ とができない。 <指導上の課題> ICTを効果的に活用した他者との交流や発表の 場の設定。	⇒ 「Teams」や「ムーブノート」等を活用し、他者と意見を共 有したり対話したりする中で、自分の考えを広げたり深 めたりする。また全教科でスクールタッシュボードを使用 した振り返りをするなどユニバーサルデザインを意識し た取り組みを行う。

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	B	「ドリルパーク」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組んだが、毎授業とはいかなかった。生徒自 らの課題を把握し取り組むため、個別に学習計画を立てた。 自己の振り返りができる時間を設定しているが、教科によって毎時間取り組んでいないため、学校全体で共有し取 り組んでいく。 基礎的・基本的な知識・技能の反復・習熟について、継続的に取組を実施した。教科によっては目標値を達成するこ とができたが、次年度以降も引き続き策を講じていく必要がある。
思考・判断・表現	B	各教科で「Teams」や「ムーブノート」等を活用し、他者と意見を共有したり対話したりする中で、自分の考 えを広げたり深めたりすることができた。また、ホワイトボードに5つのカード「課題をつかむ」「聴く」「自分 で考える」「学び合う」「振り返る」を掲示し、今のような学習活動に取り組む時間のかを明確に示すこ とができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の「情報の扱い方に関する事項」において、特に「話し合いの場での発言について説明したものとして適切なものを選択する」や「本文中の情報と情報との関係性を説明したものとして適切 なものを選択する」の問題に課題がみられた。話し合いの話題や層階を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることや具体と抽象な情報と情報との関係について理解 できていなかったりし、日常の中での活用が不十分であると考えられる。 数学の「事象を数学的に解釈する問題」や「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取る問題」「統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見いだす問題」「数学的に説明をする問 題」で課題がみられた。グラフや図を見て分析し、その傾向を読み取って数学的に考察し話し合う活動が不足していると考えられる。 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」における肯定的な回答の割合は80%であった。子ども主体の学びとなるよ うな授業を今後も継続していく。
思考・判断・表現	数学の「事象を数学的に解釈する問題」や「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取る問題」、統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見いだす問題、「数 学的に説明をする問題」で課題がみられた。 「数学の授業で学んだことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」における肯定的な回答の割合は48.4%であることから、共同編集等、協働的な学 びの機会を適宜確保しながら、身近な事柄に結び付けた導入の工夫や、実際に体験しながら学びを深めていく工夫を行ってほしい。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で、数学では、「図形」で、R5年度からR6年度で、市平均の 値との差が縮まってきている。基礎的・基本的な知識・技能の反復・習熟について取り組み、復習力を入 れた成果が出てきていると考える。日々の振り返りの中で、できたことや自身の苦手な部分を言語化させ ることや個人での家庭での学習計画を今後も立て続けさせ、更なる基礎的・基本的な内容の定着を図りた い。
思考・判断・表現	国語では、「登場人物の心情などを想像することができる」、数学では、「事象を数学的に解釈し、問題解決 の方法を数学的に説明することができる」という項目で、市平均よりも低いポイントとなった。日々 の授業改善を通して、意見を共有し、またICTを活用することでより多くの意見交換をしたり、考え方を言 葉で説明する活動に重きを置いていく。教科横断的に、複数の情報の中から必要な情報を見付ける活動 や、異なる考え方をもちた人と協議して解決策を見出す活動に取り組み、思考力・判断力・表現力を高めて いきたい。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	「ドリルパーク」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟にと り組んだが、毎授業とはいかなかった。生徒自らの課題を把握し取 り組むため、個別に学習計画を立てた。 自己の振り返りができる時間を設定しているが、教科によって毎時 間取り組んでいないため、学校全体で共有し取り組んでいく。	変更なし
思考・判断・表現	B	生徒の発表の場では積極的にICTを用い、コメントやリアク ション機能を使って評価を行った。 教科ごとにICTの使用法や成果の報告を行い、情報共有す ることで様々なアイデアを各授業にて実践し、協働的な学び につなげることができた。	課題の中で生徒に思考させるものに対し、評価 の観点を示すことで見通しを持たせ、教師が毎 回フィードバックをし反応を記述する。 全教科で振り返りを実施し、生徒が自ら変容を 見取れるように意識した取り組みを行う。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)